福岡空港

【実施主体：個社】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	賃上げを含む処遇改善のために不可欠な受託料の引き上げ	外航受託料の引き上げ	従業員の賃上げを含む処遇改善に反映できるよう外航受託料の引き上げを行った。	
		ANAグループ空港運営会社への委託料の引き上げ	本社にて、自社グループ空港運営会社の処遇改善の原資として委託料の引き上げを実施。 R6年度の委託料金引き上げを調整中。	
		検査会社への委託料の見直し	本社にて、国内定期航空保安協議会を通じて、R5年度契約料の引き上げを実施。R6年度契約料金の引き上げを実施。R7年度契約料の引き上げを実施するとともに処遇改善状況を確認。	
		委託元からの業務受託料引き上げについて継続交渉	委託元との契約交渉において実態に即した料金設定になるよう継続的に交渉を実施している	委託元との交渉は行っているが満足できる受託料金までは難しい
		委託先との契約金額の見直し	処遇改善含む賃上げ等、委託先社員の還元を前提として委託先との契約金額について、順次、見直しを進めている。	・2023年4月に、委託先の各社におけるそれぞれ事情に応じ、必要度の高い対応から順次処遇改善を実施
【短期】	人材確保にマイナスに働く受託契約の内容の適正化（キャンセル料の設定　等）	委託先との契約金額の見直し	処遇改善含む賃上げ等、委託先社員の還元を前提として委託先との契約金額について、順次、見直しを進めている。	
		便の大幅遅延や突然のキャンセル或いは大幅遅延による深夜勤務の料金化	一部の航空会社について、勤務調整が必要になるような大幅な遅延や事前通知なしでの突然のキャンセル、或いは遅延に伴う深夜作業発生時などの料金化を実施。 また、貸し倒れなどの発生を防止するため預り保証金（デポジット）の導入又は貿易保険などを付保。	
		外航受託契約条件の見直し	本社にて、最低保証条項やキャンセル料条項の導入を検討・実施中。	
		検査会社への委託契約条件の設定	本社にて、検査会社への委託契約に時間保証を継続して設定。検査場のレーン数に応じ総括責任者の配置も支払い対象化。	
		イレギュラー発生時の対応について特別料金の設定を行った	各社との契約締結時に諸条件について整理を行い、料金設定を交渉	

【実施主体：個社】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	人材確保にマイナスに働く受託契約の内容の適正化（キャンセル料の設定　等）	委託先の人材確保を下支えするための契約条項追加	最低保証料金の設定や品質連動制度等、委託先の経営の下支えやモチベーション向上に繋げられるような契約条項について、順次、追加設定を進めている。	・2024年度の委託先との契約内容の見直しを検討中
【短期】	職場環境改善に向けた取組の推進	社内CS活動としてのFF（Fun　Fan）プロジェクトの推進	従業員満足度を高めるためFFプロジェクトを立ち上げた。楽しみながらファンを増やすことをモットーに、働きやすい職場環境を作り、社員が生き甲斐・働き甲斐を感じる毎日を送れるようにすることを目的に活動を行っている。	
		処遇の改善	R5年度ベースアップ、初任給アップ、公休数増を実施。 R6年度ベースアップ、初任給アップ、公休数増を予定。 R6年度シニア（雇用延長者）、障がい者雇用の処遇改善を実施予定。	
		処遇の改善	R6年度ベースアップ、若手～中堅層の昇給額の見直し、公休数増を実施。	
		職場環境の改善	・休憩室のレイアウト変更（テーブル、椅子差替えおよび配置変更） ・一部の事務所　床の張り替え ・貨物地区食事環境改善策（オフィスおかん）R6.4～本運用 ・貨物地区への「1on 1」スペースの設置　R6.10～ ・休憩スペースを拡大　R6.12～	
		・休憩室、更衣室ロッカーの増備 ・熱中症対策の実施	・社員の増員に対応するため休憩室を新たに設置し、職場環境に改善を図った。男女比の解消に対応するため、ロッカー等の増配備を実施した。 ・ランプエリアの酷暑に対応すべく、スポットクーラーの導入を行った	空港によっては職場環境を改善したくとも施設上のスペースが不足しているために困難である
		オフィスや休憩スペースの増床・リニューアル	復便、増便に伴う職員増に対応すべく、オフィススペースや休憩スペースを増床。あわせて、職場環境の改善を図るため、安全衛生の観点から改修を実施。	・国際線の復便に伴い国際線ターミナルで勤務する社員の配員数が増加したことを受け、国際線ターミナル内オフィスのリニューアルを実施した。
		作業軽減施策の実施 ※コンテナドーリー回転用取手の設置	取付可能なコンテナドーリーに、グラハン作業者が回転させる際に身体的負荷が軽減するように設置する。他空港において実績があることから福岡空港においてトライアルを実施する。	・グリップを付け腰への負担が減り、腰痛防止 ・ドーリー回転時に指を挟みインシデントの減少 ・性別比率に偏りがある業種であり、負荷が軽減することで働きやすい環境の整備にも繋がり、 現在トライアル実施中である。

【実施主体：個社】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	職員の負担の集中を回避するための正確な現状把握	職員負担の集中を回避するための正確な現状把握	国内定期便のハンドリングに影響が出ないような要員配置となるよう、外航受託においては、航空会社と運行ダイヤ等について事前に調整を実施。	
		生産量ならびに生産対応状況の把握	本社にて、自社グループ空港運営会社の生産対応状況を毎月把握。	
		生産量ならびに生産対応状況の把握	生産対応状況を毎月把握。	
		職員数や労働時間の定点的な情報収集	職員の負担を定量的に把握し改善に繋げていくため、配員バランスや採用状況、労働時間の定点的な情報収集を実施。	・必要数に対する配員数のバランス、勤務実績に基づく労働時間、ストレスチェックに基づく社員の負担感などについて、適切に把握および管理している。
【短期】	適切な業務量調整による高負荷の抑制	外航側からの応援要員派遣	本社にて外航と調整し、不足人員を外航側からの応援要員で暫定的に充足。	（例）1～5名x1～3ヶ月程度 ※対象空港に追加があります。
		自動化・省力化の促進	本社にて外航と調整し、必要人員を削減すべく外航ハンドリングにおける自動チェックイン機、自動手荷物預け機の活用を促進。	
		貨物運送量の平準化	国内貨物の需給に合わせて事前に1便あたりの貨物運送量を制限し、アサイン本数を減らす運用を開始。	1日当たり1アサインの削減効果（日曜日限定で実施）。 R6年度以降の実施可否は、改めて貨物需要を精査し検討。
		正社員領域、派遣領域の見直し	復便、増便に伴う職員負担増の軽減のため、正社員領域の見直しを実施。一部業務については、アルバイト・派遣社員等も活用し業務量（職員負担）を調整。	・正社員の配員バランス改善を目的として、一部業務において派遣社員の受け入れを開始し、その領域を適宜拡大している。
【短期】	採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用） 等）	採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用）	専門学校等に、地元に戻ってグラハンを希望するOBの紹介を依頼するとともに、地元自治体のUターン・Iターン施策に参画。	
		ワークプレイス制度の実施	自社グループとしてリテンションを図るべく、働く場所の事情に応じたグループ内転籍制度の運用を実施。	R5.4以降 90名程度応募あり（グループ全体）
		既卒採用の実施	経験者採用の実施。 ※既卒採用募集～採用実施について記載（23年4月以降入社対応について記載）	R5.6以降 29名採用（7月18名／9月入社4名／10月入社4名／R6.1月3名）

【実施主体：個社】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用） 等）	カムバック制度の導入	グループOBOGのカムバックの運用を開始。 ※募集開始や実績について記載（23年4月以降入社対応について記載）	R5.2以降 1名採用（R5.10入社）
		会社HP更新	採用競争力強化を目的とした会社HPの「採用情報」コンテンツの大幅改訂	
		・FIAC主催合同企業説明会への参加 ・実習生の受け入れ（2023.6月～） ・派遣社員の受入れ ・アルバイト雇用（2023.4月～）	隔月で開催されているFIAC主催の合同企業説明会に参加し、福岡空港中心に積極的な採用活動を実施した。 また、専門学校からの実習生受け入れも並行して実施。 即時の人材確保として、派遣社員・アルバイトの採用も展開した。	
		外国籍人材の積極採用	・人材不足を補う為、日本人に限らず外国籍人材の積極的な採用を行っている。 ・インドネシア、台湾、韓国の定期採用ルートを確立した	
		・賃金ベースの改定 ・年間休日の改定	職員の生活環境を向上させ、同時に競争力を持った採用を進める為、大幅な賃金UPを実施。 また、年間の公休日数は110日⇒120日へ増やし、従業員の待遇改善を実施。	
【短期】	教育期間の短縮に向けた工夫（実践技術に特化した訓練等）	係員の訓練時間の適正化	本社にて、受託にかかる訓練時間の短縮余地の精査を実施。	
		入社後に実施する初期教育の全体座学の期間短縮	入社後、しばらく経過してからアサインされる業務に必要な座学については後日実施することとし、初期教育の座学を短縮。	2023年度に入社した社員より実施しており、初期教育の4日程度の短縮を実現するとともに、社員の教育受講負荷の軽減にも繋がっている。
【短期】	需要回復の進捗状況に応じた、限られたリソースの集中的な投入	事業所間での人員支援	急激な航空需要の回復に対応すべく、事業所間での支援体制を構築し、全社での対応を実施している。	
		空港間の応援派遣	需要回復に対応するため、空港単体でのリソースで対応が難しい場合には、他空港からの応援者を派遣することでリソース不足を解消。	外航受託による必要数の増や、休退職による配員数の減などに基づく配員数の不足に柔軟に対応するため、空港間の応援派遣を月次で実施している。

【実施主体：個社】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【中期】	長期に誇りをもって勤められるキャリアパスの整備	キャリアパスの提示等	ホームページにキャリアパスを掲示している。 入社教育・階層別研修などの研修機会にキャリアパスの説明を実施している。	
		グループ内異動の公募の実施	空港横断的な配置によるキャリア形成を支援すべく、空港部門内でのグループ会社間異動の公募を実施。	R6.4より公募合格者の配置を実施予定（8名程度）
		キャリア支援	管理職チャレンジの導入（R6年度から試験実施）	
【中期】	ハード・ソフトの両面からの職場環境改善の推進	・ランプ業務の負担軽減のための検討 ・社員会・FFプロジェクトを中心とした職場勤務改善の推進 ※FF（Fun Fan）プロジェクト：従業員満足度を高めるための活動	・手荷物搭載業務の負担軽減のためパワースーツの導入等の検討を開始した。 ・社員会・FFプロジェクトを通じてハード・ソフトの両面から職場環境の改善に努めている。	
		施設・設備の改善	休憩室の改善を実施。	
		貸与品の改善	より快適な制服（ポロシャツ）やヘルメット、タブレット使用も可能な高機能手袋の購入。 個人のニーズを踏まえた貸与ルールへの改善。	R6年度より配備予定
		処遇改善を前提とした生産計画	公休増、有休取得増を前提とした生産計画を実施。	R6年度よりグループ空港会社全体で公休＋6日として計画。
		処遇改善を前提とした生産計画	公休増、有休取得増を見据えた生産計画の実施。 R6も継続して採用実施。	R6年度より公休＋4日として計画（年間公休112日）
		施設・設備の改善	・オフィスおかんの本運用開始。 ・PCの増設を行うことにより社内情報の閲覧環境を改善。 ・国際線休憩室の環境改善（スペース確保・レンジ・ケトル設置）を実施。 ・証明照度が低いデスクにLEDライトを設置。 ・雨天時専用の手袋を導入し、作業性を向上。	
		空港ターミナルビル立て替えに伴い、新事務所/休憩室を設置	大幅な事業拡大を実現する為に、社員の増員ならびにESを向上させる為に事務所ならびに休憩室を確保し、職場環境を改善した。	

【実施主体：個社】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【中期】	特定技能制度の積極的な活用	特定技能による人材確保策の検討	特定技能による人材確保策について検討を開始した。	
		特定技能制度を活用したスタッフの受け入れ	特定技能登録支援機関と連携し、受け入れに向けた社内体制の整備を行っている	
【長期】	短時間労働やマルチタスク化を含む多様な働き方の実現	・短時間職員の活用 ・マルチタスク化の推進	・短時間職員制度は2018年から導入しており、社内で制度が浸透するとともに活用者も増えている。 ・旅客担当職員がランプ業務の一部を担う、またはランプ担当職員が旅客業務の一部を担うなど、10年ほど前から職務間のマルチタスク化を推進している。	
【長期】	業務内容や技術に応じた賃金の設定	適正な賃金の検討	各部門から社員の代表者を選抜しプロジェクトチームを立ち上げ、強靭な体質の会社を作るための他の項目を含め検討を開始した。	
【長期】	就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現			
【長期】	人件費圧縮競争を防止する観点からの多重委託構造や雇用慣行・契約慣行の見直し			

【実施主体：空港会社等】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	空港内の労働環境の改善	新規検査会社セノンの参入	2023/4/18～ 国際線旅客保安検査場において、新規検査会社の参入により、検査レーンの増。	既存検査会社検査員の負担軽減
		警備員の表彰	不審者突破未遂事案を未然に防いだことをたたえ、空港設置者による表彰を警備員に対し行った。	警備員のモチベーション向上
		職場環境の改善アンケート	グラハン事業者14社へ職場環境の改善に関するアンケートを実施	次年度の新規取組みを検討
		職場環境の改善インタビュー	主要グラハン事業者5社へ職場環境の改善に関するヒアリングを実施	次年度の新規取組みを検討
		貨物南側出入口の運用時間延長	2023/7/1～ コロナの影響で封鎖していた貨物地区へのアクセスポイントの運用時間を、旅客回復に伴い延長した。	空港内職員の動線短縮（効率化）
		南SRA検査場の復帰	2023/7/1～ コロナの影響で封鎖していた検査場（2か所中1か所）を、旅客回復に伴い再開した。	空港職員の動線短縮（効率化）
		検査会社への更衣室・休憩室の貸与	2023/7/23～ コロナ禍で検査会社から返還があった更衣室・休憩室を検査員復帰に伴い、優先的に手配し賃貸借した。（それまでは国内線で更衣後、国際線へ移動していた）	検査職員の負担軽減
		ロビー整理要員の空港内見学	2023/8/2 ロビー整理要員に対し、空港内施設の見学を実施	旅客からの様々な問い合わせを受けるロビー整理要員の負担軽減
		警備会社向け空港内見学会	同業種（警備会社）間で、他社の職場見学を実施。	同業種間の横連携を強化し、他業者への理解を深め情報が得られやすい環境を整える。また、普段入れないエリアの見学による単純なリフレッシュの機会をつくることを目的とした。
		館内共用休憩室の再整備	R5.11月より暫定運用していた休憩室の利用者アンケートを基に、席数増（1.5倍）や水回りの整備、空間演出等を行い、食事だけでなくリラックスできる場としてリニューアルを実施	供用後のアンケートによる満足度4.5（5段階評価）

【実施主体：空港会社等】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	空港内の労働環境の改善	ランプ休憩所の新設	東側オープンスポット（16番）にグラハン従事者が利用できる休憩所を新設。暑さ・寒さを凌げる場所、避雷所として活用を想定	・従事者の負担軽減 ・事務所との移動軽減による効率化 ・供用後のアンケートによる満足度4.3（5段階評価）
		ハイジャック対応訓練 （兼未検査旅客検査事案対応訓練）	新規検査会社の参入を受け、旅客検査場への未検査旅客進入時の対応訓練を実施。国際線で未検査旅客が発生した際に、搭乗待合室から旅客を退場させ、再検査するまでの手順を確認。航空会社・検査会社および官庁（CIQ・空港事務所）等多数参加。	職員（検査会社職員含む）の不安感軽減。
		国際線休憩室の新設	従業員用休憩室を新たに整備。	
		ボウリング大会の実施	事業者間の関係構築や一体感醸成を目的に、第2回目となる運動会を開催	事業者間の関係構築によるモチベーション向上
		運動会の実施	事業者間の関係構築や一体感醸成を目的に、ボウリング大会を開催	事業者間の関係構築によるモチベーション向上
		貨物地区における従業員向けキッチンカー販売の開始	食事環境がない貨物地区の従業員向けに暖かい食事を購入できる環境を新たに整備。	ES向上
		検査場の運用時間延長	国際線ターミナルに2カ所整備されたSRA検査場のうち1カ所は、従前8：00～20：00の運用であったが、8：00～21：00へ延長した。	空港職員の動線短縮（効率化）
		CT機・スマートレーンの導入 （スマートレーン化）	2024年1月、国内線南北2カ所の検査場をスマートレーン化（国際線は2025年度予定※ターミナル改修に併せ実施）	スループット向上・省人化 開披検査の減によるお客様・検査員双方のストレスの低減（PC、ペットボトルなど）
【短期】	空港の知名度を生かした採用活動	合同企業説明会	・2023/7/22開催（来場者数223人） ・2023/9/2開催（来場者数186人） ・2023/11/24開催（来場者数80人） ・2024/1/20開催（来場者数245人） ・2024/2/9開催（来場者数93人） ・2024/3/23開催（来場者数350人） ・2024/7/20開催（来場者数378人） ・2024/11/8開催（来場者数104人） ・2025/3/15開催予定	

【実施主体：空港会社等】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	・空港内の労働環境の改善 ・マルチタスクを担うことができる空港人材の育成に向けた研修	国内線における番台導入	・旅客保安検査場において番台を導入。 2023/4/20～　国内線北開始 2023/4/28～　国内線南開始 ・当該業務はロビー整理業務の委託先に依頼。	既存検査会社検査員の負担軽減
【短期】	空港WGの活用推進	第13回福岡空港グラハンWG開催 国際線共用トライアルを受けた改善検討。	・グラハンWGを4月26日に開催。 ・スポット固定化、GSE整備記録などALの監査に必要な書類の整理などについて事業者と協議・検討。	
		福岡空港人材確保WG開催	・2024年4月以降、12回開催。 ・福岡空港合同企業説明会の他、個社毎の人材確保、人材育成に関するもの。	
【中期】	GSE車両の共用化・共有化の推進	国内線地区においてGSE車両の共用スキームを一部本運用化	第11回グラハンWGにて国内線地区における共用スキームの本運用化が承認され、2023冬ダイヤよりトライアルから本運用に移行した。（ANA/JAL：移行済、SAS/SKY：移行へ向け、調整中）	昨年度実施のアンケートにより、共用化はランプハンドリング事業者より好評を得ている。
		国際線地区においてGSE車両の共用トライアルを実施予定	第12回グラハンWGにて国際線地区における共用トライアルが承認され、3/1～トライアル実施予定。	
		共用化・共有化の推進に向けた情報収集、意見交換を実施。	他空港事例の研究や機材ベンダーとの意見交換を実施。	
【中期】	男女比の極端な偏りの解消に向けた取組推進			
【長期】	就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現			
【長期】	スマートレーン等の先進機器の導入	CT機・スマートレーンの導入 （スマートレーン化）	2024年1月、国内線南北2カ所の検査場をスマートレーン化（国際線は2025年度予定※ターミナル改修に併せ実施）	スループット向上・省人化 開披検査の減によるお客様・検査員双方のストレスの低減（PC、ペットボトルなど）

【実施主体：空港会社等】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【長期】	サプライチェーン等を意識した効率的な設備配置に向けた調整			

【実施主体：地方自治体】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	地元グラハン会社・検査会社とのコミュニケーション強化（人員体制等の正確な現状把握等）			
【短期】	空港業務は地域の雇用を支える地場産業であるという観点から、部局横断的な連携の下での取組の実施			
【短期】	空港業務支援も誘致支援の一部と位置付けた上での関係部局（観光、産業振興 等）と連携した支援の実施			
【短期】	空港WGの活用推進			
【中期】	地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の検討（空港アクセスの不便さ等を考慮した住居支援、通勤支援 等）	福岡県正社員チャレンジプログラム（人材不足分野雇用促進事業）	・紹介予定派遣の仕組みを活用した人材育成支援 ・業界を知るセミナーやキャリアコンサルティング支援 ・合同会社説明会・面接会 等	
【中期】	特定技能の在留資格を有する外国人が地域に馴染むための環境整備			
【長期】	就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現			
【長期】	持続可能な観点からの戦略的な路線誘致（交通部局と観光部局との緊密な連携）			
【長期】	地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の充実			

【実施主体：国】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	各地の空港におけるベストプラクティスの横展開（事例収集・整理 等）	空港WG内での共有	国交省HPにて公表されたベストプラクティスを空港WG内で共有。	
【短期】	地域の意欲的な取組への積極的な協力 （空港説明会への参画等）	福岡空港定例幹部会及び情報共有WG	福岡空港事務所と福岡国際空港㈱との間で、福岡空港の運営等に関する情報や課題等について共有及び意見交換等を実施。	
		「空の日」事業として空港内業務の紹介や体験等を実施	福岡空港における関係機関と協力の上、空への関心を高めるとともに空港の発展に寄与等する事業として、航空管制官の業務紹介や管制シミュレータ体験、航空会社の航空整備士による航空教室やマーシャリング体験等を実施。	
【短期】	生産性向上・業務効率化の実現に向けた取組支援（先進機器の整備補助 等）	地方空港等受入環境整備事業費補助金	R4補正補助金の活用に向けた積極的な周知・取り纏め等	
【短期】	各主体による取組の重要性の発信	ありがとうポスターの周知・掲示	取組の重要性に加え、航空局職員が率先して空港業務に携わる方々への感謝の気持ちを表す取組について職員に周知するとともに、取組啓発ポスターを所内に掲示。	
【短期】	空港WGの活用推進	福岡空港グランドハンドリングWG及び福岡空港人材確保WGへの参画	各WGに参画し、課題解決に向けた取り組み等について、必要に応じて福岡国際空港（株）と連携・協力を行う。	
【中期】	空港DXの導入促進に向けた実証実験	福岡空港出入国体制強化WGへの参画	WGに参画し、出入国体制強化計画の策定の取り組みについて、WGメンバーへ協力依頼。	
		地方空港等受入環境整備事業費補助金	R4年度補正補助金制度の活用に向けた積極的な周知	
【中期】	更なる支援措置等の検討（人材確保・育成、業務効率化、GX/DX等）	地方空港等受入環境整備事業費補助金制度の活用推進	空港運営会社とも連携し、航空・空港関係者の人材確保・育成等、生産性向上に資する取組や国際線の受入環境高度化の推進に係る補助事業を事業者に紹介するなど、補助金制度の活用を推進した。	

【実施主体：国】

福岡空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【長期】	先進技術等の開発・実証、更なる活用の推進	空港WG構成員への情報共有	国交省HPに公表された「空港業務DXの推進」資料をもとに空港WG内へ共有を行った。また、関係者と連携した取組を検討している。	
【長期】	業界ルール整備を前提とした、専門学校との連携強化や共同訓練の推進	空港WG構成員への情報共有	第9回 持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会において、「空港業務における現状と取組状況」中、「空港グランドハンドリングにおける特定技能外国人の受入れ」が出されたため、空港WG内へ共有を行った。 また、関係者と連携した取組を検討している。	
【長期】	処遇改善・業務効率化等に必要な保安関係料金の適正水準のあり方の検討	空港WG構成員への情報共有	第10回 持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会において、「空港における旅客の保安検査の実施主体の円滑な移行に向けた実務者検討会の開催状況（報告）」が出されたため、空港WG内へ共有を行った。 また、関係者と連携した取組を検討している。	
【長期】	必要に応じた制度的見直し	空港WG構成員への情報共有	第10回 持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会において、「制度的措置の方向性（報告）」が出されたため、空港WG内へ共有を行った。 また、関係者と連携した取組を検討している。	
【長期】	空港に関する基礎的データの収集・整理（職員数、年齢構成、年代別年収、離職率　等）	空港WG構成員への情報共有	第9,10回 持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会において、「空港業務における現状と取組状況」が出されたため、空港WG内へ共有を行った。 また、本省にて令和6年7から8月に実施された「空港業務の持続的発展に向けた取組に係る情報収集」（アンケート）の取り纏め結果についても、空港WG内へ共有を行った。 また、関係者と連携した取組を検討している。	